

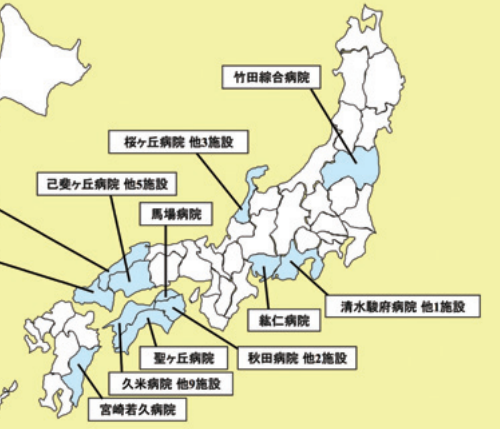


精神医学への 漢方薬の有用性を追究

抗精神病薬の副作用軽減に、漢方薬を積極活用されている堀口淳教授。
厚生労働省補助事業として推進中の
全国共同研究のお話などをお聞きました。



試験参加施設【34施設】



医学の基本は、人全体を診ること。精神医学においても、患者さんの表情や動作などを観察し話をするだけでなく、症状を訴えればその部分に触れることで、患者さんと医師との信頼関係が築かれるのです。

ほりぐち じゅん
医学部 教授 堀口 淳

抗精神病薬の副作用軽減を目指し 抑肝散の効用に手ごたえ

今年の2月に放送されたNHKのテレビ番組『夜なこにあさイチ』漢方スペシャル』に出演。医療業界のみならず幅広く知られることになった堀口淳教授。ご専門の精神医学と関係の薄いイメージの漢方薬に出会ったのは5年ほど前のことで、「抑肝散（よくかんさん）」という薬を使用してみると、思いのほか効果があつた（堀口教授）。

漢方薬を使い始めたきっかけは、西洋薬の副作用に対する悩み。「不幸にして精神の病に罹患して苦

しんでおられる患者さんが、薬物療法により、さらに手が震えるなど薬の副作用にも苦しまねばならない。この二重の苦しみを何とか解決できないか」との願いから。

「抑肝散は神経のたかぶりに効くことから、従来は小児の夜泣きなどに投与されてきました。近年、認知症の寝ぼけなどにも奏功することが報告され、統合失調症や境界性人格障害などの臨床現場においても頻用されつつあります」（堀口教授）。

厚生労働省の補助事業である 全国的な共同研究を先導

抑肝散の、認知症等に対する効能メカニズムも解明されてきました。「認知症の周辺症状である徘徊や暴力は、脳内のグルタミン酸増加に起因しますが、抑肝散がこのグルタミン酸を正常化するのです」（堀口教授）。こうした中、統合失調症の治療における

抑肝散の有用性を検証するため、厚生労働省の補助事業として、島根大学医学部精神医学講座を中心に、全国34病院の協力を得て共同研究が行われています。

この大きなプロジェクトを先導する堀口教授だが、元々は『人に喜ばれる仕事

【研究全体のロードマップ】

統合失調症の薬物治療の重大な問題点

- ①20~25%が薬物治療抵抗性
- ②抗精神病薬の多剤大量療法の横行
- ③抗精神病薬の副作用によるQOLの低下

抑肝散と抗精神病薬との併用療法

統合失調症の薬物治療の飛躍的進歩

- ①治療抵抗性の減少
- ②抗精神病薬の多剤大量療法の減少
- ③副作用発現の低下によるQOLの向上

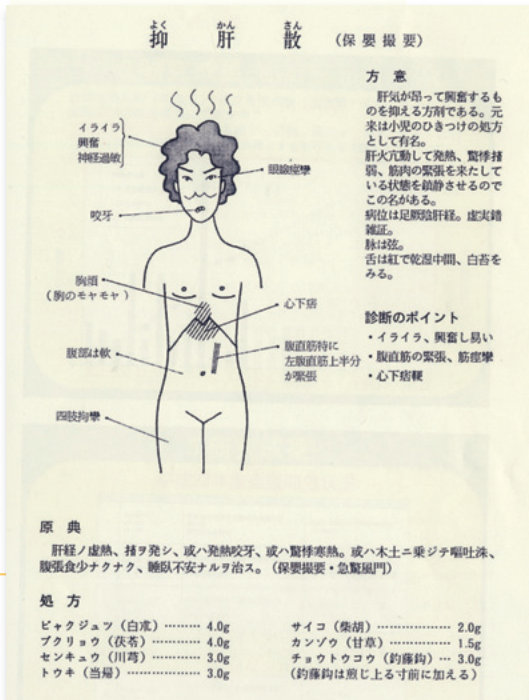
期待される社会的成果

- ①医療資源・コストの低減
- ②長期入院患者の退院促進
- ③患者および家族の負担軽減

多大な医療経済的效果

西洋医学と東洋医学の
統合医療の発展

全国34の病院と連携し3年計画で行われている
大掛かりな共同研究の成果に期待が寄せられています。



出展：高山宏世著 『漢方常用処方解説』 三考塾刊

子どもの夜泣き、かんの虫に利用されてきた抑肝散が、
精神医学分野で活用され始めました。

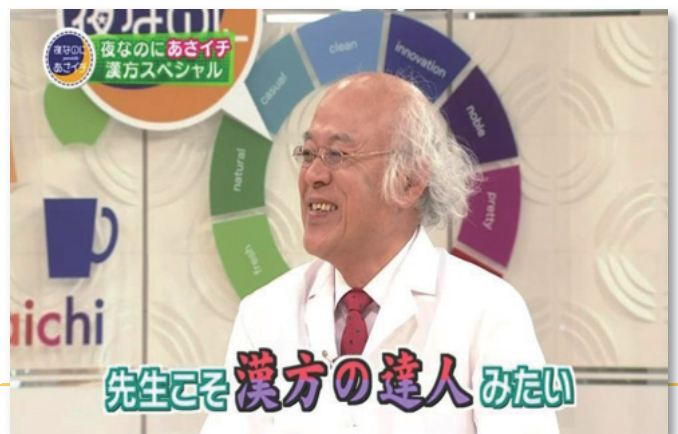


ちょっと 気になるキーワード

『抑肝散』は、7種類の生薬からなる漢方薬。神経のたかぶりに奏功するため、小児の夜泣きや痲癩（かんしゃく）に処方されてきたものです。「平成7年に、東北大の研究者が認知症に伴う精神障害に効果があるとレポートしたことをきっかけに、精神医学関係の様々な治療現場で使われるようになってきました」（堀口教授）。

古くから使われて なじみのあった抑肝散

NHKの番組に出演し、認知症等に対する漢方薬の有用性を解説。



を」と医療の道へ。患者さんに対する優しい眼差しを根底に、「西洋医学・東洋医学と言われますが、人の体や脳にとって、西洋も東洋もなインです。西洋医学的な抗精神病薬に漢方薬を加えることで、周辺症状の改善や副作用の軽減・消失する道を開きたい。患者さんの負担を少しでも軽くできるといいですね」と展望を語られた。